

第18回数値流体力学シンポジウム報告

実行委員会委員長 姫野 龍太郎†

第18 回数値流体力学シンポジウムが平成16年12月15日から三日間、例年同様代々木にある国立オリンピック記念青少年総合センターで開催されました。これまで約二十年に渡って毎年開催され、発展してきたこのシンポジウムは、これまでオーガナイズド・セッションを設けたことはありません。これは、特に研究発表の募集を積極的に行わなくても、十分に数が集まって来たからです。しかしながら、CFD の研究者の間で、CFD 自体、発展期を脱して成熟期になったというような潮流の変化を感じ、CFD の役割の変化を意識するようになったのも事実です。今回のシンポジウムではこのことを念頭に置き、初日の特別講演では宇宙航空研究開発機構の藤井孝藏先生に、“CFD は何を変えたか？～航空宇宙CFD の30年から見るCFD の将来～”と題した基調講演をお願いしました(写真1)。また、CFD が産業界での利用の時代にもなったことから、“CFD 利用のデジタルデザインにおける形状処理と格子生成の課題”と題するパネル討論(写真2)を最終日に企画しました。これらの企画に対し、参加者がどのように感じられたか、良く分かりませんが、会場に多くの若い世代の参加者があったこと、質問や討議が途切れず、参加者が熱心であったことが印象に残っています(写真3)



写真1 藤井孝藏先生による基調講演の様子。

二日目には他分野での最新動向を聞くため、東京大学計算科学技術連携研究センターの佐藤文俊先生にお願いし、“タンパク質の精密全電子計算:その意義と展望”という特別講演をしていただきました(写真4)。生命現象のシミュレーションに迫る未来が、ここから拓けてくるような予感を感じさせるものでした。



写真2 パネル討論の様子。



写真3 基調講演時の聴衆の様子。



写真4 佐藤文俊先生の特別講演の様子。

†E-mail : himeno@riken.jp

今回、新たに企画したことに CFD ベスト・グラフィックス・アワードがあります。前回の第 17 回シンポジウムの CD-ROM に収録された図の中から、今回のシンポジウム実行委員が選考し、今回のシンポジウムのポスターに図を採用するとともに、懇親会の席で表彰を行い、トロフィーと副賞を贈呈しました。ここに合わせて報告させていただきます。

最優秀賞：加藤香，青木尊之（東京工業大学），吉田正典（産業技術総合研究所）

優秀賞：佐分利禎，青木尊之，今井陽介（東京工業大学）

優秀賞：高野克倫，藤田健，中橋和博（東北大学），野口正芳，郭東潤，吉田

憲司（宇宙航空研究開発機構）

以上、敬称は略させて頂きました。なお、今回 CFD に関係の深い日本 SGI 株式会社，富士通株式会社，日本電気株式会社の三社から副賞を提供頂きました。ここに記すとともに感謝いたします。

実は、このような選考のやり方をすると、研究発表から一年経過してからの表彰となり、いささか間延びします。そこで、今回コンテストも企画し、研究発表と同時に申し込んで頂きました。ところが、こちらの宣伝不足から十分な数の応募が集まらなかったため、今回は応募して頂いた方に参加賞を贈っただけとなってしまいました。応募頂いた方々にお詫びいたします。

さて、この時提供頂いた賞品は十分な数がありましたので、懇親会では CFD の歴史に関するウルトラクイズを行い、勝者に残りを贈りました。このようなイベントを企画したおかげで、懇親会参加者は例年に比べ倍となり、大幅に増やすことができました（写真 5）。

報告の順番が通常と逆であるかもしれませんが、研究発表数は 179 件で、昨年 250 件、一昨年の 220 件に比べ、大幅に減少しています。これは、ある分野の研究者がごっそり抜けていた状況から、いくつかの国際会議が日程的に重なったことが、大きな原因となっていたようで、今回に限ったことではないかと想像しています。しかし、発表件数が減ると参加者数

は連動して減ることが予想されました。そこで、当初計画よりも支出を切りつめ、講演論文集への広告や、企業展示の募集を例年よりも強化し、なんとか収益を確保しようと努力しました。ところが、シンポジウム参加者は 410 名と例年と同程度確保できたことから、こちらの予想に反して結果的には大幅に収益向上となりました。このように、例年より大幅に発表件数が減る中、実行委員の方々には例年以上の協力を得ることができ、今回のシンポジウムを成功裏に終えることができました。特に収益面では広告と企業展示を担当頂いた東工大・青木委員、および海技研の日野委員の貢献は非常に大きいものでありました。ここに深く感謝いたします。最後に、幹事を務めて頂いた理化学研究所の小野謙二、白崎実の両氏が実質的に今回のシンポジウムを取り仕切り、名ばかりの実行委員長であった私を支えて頂きました。本当にありがとうございました。

次回は中央大学の檜山和男先生が実行委員長として采配をふるわれることとなっております。ご存じの方も多いと思いますが、檜山先生は中央大学で数値流体力学シンポジウムが開催されていた時、開催場所を提供する関係で長い間、裏方として本シンポジウムを支えてこられました。本シンポジウムの新たな可能性を盛り上がりを祈念しつつ、筆を置きます。



写真 5 懇親会での松本会長の乾杯の御発声。